

手探り続く対面授業再開

QRで行動を記録 質疑にアプリ活用

東洋大

関西学院大

多くの大学が秋学期から対面授業を一部再開した。新型コロナウイルスがなお猛威を振るうなか、「3密回避」を徹底するほか、学生の行動記録を取ったり、質疑にアプリを活用したりと、幅広い対策が進む。ただ、非対面（遠隔・オンライン）授業とのバランスなど課題もあり、「新常態」への対応に試行錯誤している。

東京都文京区にある東洋大学の白山キャンパス。登録した学生はコロナ前ならそのまま教室に向かったが、9月に対面授業を一部再開した秋学期からは新たな「日常」が加わった。

東洋大学では学生が登校するとQRコードをスマホで読み取る（東京都文京区）



その後、「QRコードを各自のスマートフォンで読み取って、入構時間を登録してください」と書かれたボードの前で立ち止まる。読み取り、送信の操作をしてから教室に向かう。教室でも座席上

のQRコードを読み取ってから着席。退構時と同様の操作をする。

大学は各学生の入構時刻から座った席まで管理できるようにした。キャンパス内でコロナ感染が確認された場合、関係者にすみやかに連絡できる。学生には手間だが、慣れれば楽。友達に会えてうれしい」と国際観光学部在籍の2年生。

対面を再開した大学は3密回避に全力をあげている。白山キャンパスでは秋学期15回の授業のうち対面5回、非対面10回などという配分で、個々の学生が登校できるのは週2日ほど。1日に入構できる人数は通常の約4分の1の3000人に抑えられた。学生食堂は休業中だ。議論を伴う少人数の授業では、よりきめ細かい対応が必要となる。関西学院大学商学部では10月24日と31日、国連のSDGs（持続可能な開発目標）を題材とした集中講義を行った。学生28人が7チームに分かれ、グループワークやプレゼンテーションに取り組んだ。

関西学院では秋学期、学生定員の4分の1未満の登校で、換気量調査の要件を満たせば「対面」を可能にした。「オンラインへの切り替えも検討したが、授業の性質上難しい」（担当の阪智香教授）と判断。授業中は常時、すべての窓とドアを全開にした。

質疑応答の際は発言者にすみやかに連絡できる。学生には手間だが、慣れれば楽。友達に会えてうれしい」と国際観光学部在籍の2年生。

対面を再開した大学は3密回避に全力をあげている。白山キャンパスでは秋学期15回の授業のうち対面5回、非対面10回などという配分で、個々の学生が登校できるのは週2日ほど。1日に入構できる人数は通常の約4分の1の3000人に抑えられた。学生食堂は休業中だ。議論を伴う少人数の授業では、よりきめ細かい対応が必要となる。関西学院大学商学部では10月24日と31日、国連のSDGs（持続可能な開発目標）を題材とした集中講義を行った。学生28人が7チームに分かれ、グループワークやプレゼンテーションに取り組んだ。

関西学院では秋学期、学生定員の4分の1未満の登校で、換気量調査の要件を満たせば「対面」を可能にした。「オンラインへの切り替えも検討したが、授業の性質上難しい」（担当の阪智香教授）と判断。授業中は常時、すべての窓とドアを全開にした。

質疑応答の際は発言者にすみやかに連絡できる。学生には手間だが、慣れれば楽。友達に会えてうれしい」と国際観光学部在籍の2年生。

を開設した。無症状のオンラインを中心としながら対面を再開した。日本程度検査する。検体採取から約6時間後に結果が分かるという。集団生活をしている寮生を優先的に検査する。

千葉商科大学は不特定多数の人が触れる場所に抗ウイルス・抗菌作用剤を塗布した。対象はキャンパス内の教室、研究室、事務局、図書館、体育館、食堂など。「授業の終了ごとに教室を清掃、消毒することも検討したが、人員の手配が難しく、すでに複数の大学でクラスターは発生した。各大学の露崎洋氏。抗ウイルス剤は当面、足元のコロナ対策に注力しながら、中長期的な授業のあり方を模索することになりそう。

明治大学は秋学期、オダハイブリッド型

ハイブリッド型

「新常態」の主流に

文部科学省が「対面授業の割合が半分未満の大学を公表する」という趣旨の発表をしたのは10月中旬。対面に踏み切る大学の中には、これが圧力になる可能性もある。だが、肝心なのは50%未満以上かという一面に戻ることは考えにくい。当面は両方の長所を組み合わせたい「ハイブリッド（複合）」が授業の新常態になりそうだ。

各大学は春学期に非対面（オンライン）を余儀なくされたことで、両方の長所、短所を体感できた。オンラインには「自題は山積みだ。新常態で

教育の質をいかに維持・向上させていくかは、大学の競争力に直結する。（滝沢英人）

教育の質をいかに維持・向上させていくかは、大学の競争力に直結する。（滝沢英人）